

「第17回 ゆきかう那賀川推進会議」を開催

令和5年10月11日（水）に、ファガスの森高城にて、「第17回 ゆきかう那賀川推進会議」（以下、推進会議。）を開催しました。今回の推進会議には、委員10名とオブザーバー1名の計11名が出席しました。

今回、那賀町の「ファガスの森高城」で開催したのは、前回の推進会議において、那賀川上流域のほとんどは森林であることから、河川を守るためには森林の大切さを理解することが重要という意見があり、山や森の現状を見る機会を設けるため、ファガスの森高城で会議を開催することとしました。



まずは、現地調査ということで、平井委員の案内・説明でファガスの森周辺を歩いて、山や森の現状を確認しました。

次に、令和5年度以降の新たな取組の状況について、主なものを説明しました。

① なかがわ探検バスツアーは

- ・第1回 8月6日（日）に開催
- ・第2回 10月29日（日）開催予定

② 那賀川流域写真展は

- ・第1回 7月3日（月）～28日（金）
阿南市役所2階ロビーで開催
- ・第2回 8月8日（火）～22日（火）
那賀川図書館1階市民ギャラリーで開催

- ・今後は、阿南市情報文化センター、四季美谷温泉、阿南市光のまちステーションプラザで開催予定

③ サイクリングコースは那賀町の「自転車天国にゆうだに」と連携を協議中。

④ ダム右岸展望台の拡幅は9月より施工開始、年度末完成予定。

⑤ 長安ロダムのライトアップは9月25日に試験点灯。年度末完成予定。

これらに対して委員からは、

◆バスツアーには「学び」と「遊び」が必要

◆ライトアップはなか四季美湖の名称にあわせ、季節ごとに色の変化があるライトアップをしたらよい。

◆時期毎にライトアップの色を変化させている川口ダムを参考にするとよい。

◆写真展もいろいろな方から募集し、いろいろな分野の写真を展示してはどうか。

などの意見がありました。



前回会議で「いろいろな取組を物語化していくところに、この推進会議の価値がある」との意見がありました。

物語化をするためにどうすればよいかということで「ゆきかう那賀川推進会議の今後の目指すべき取組（案）」を考えました。

これは、那賀川の河川利用を増やすことで、河川での交流人口を増やし、さらに地域活動等とも連携した那賀川全川を結ぶ「かわまちづくり」として、地域の活性化につなげていこうということを「物語化」の目指すべきところとしたものです。

この案について、委員の方々に意見交換をしてもらいました。委員からは、

- ◆那賀川の歴史をどう引き継いでいるか、それがどう繋がっているかが自分たちが作った物語。過去の歴史から引き継いでやっている「丸太走り大会」などは大切。
- ◆交流人口を増やしていく場合、河川利用における安全対策を考える必要あり。
- ◆オーバーツーリズムや地域のルール・環境を知ってもらい、そういったものがあって河川が活かされているというものを取り入れ、流域の交流人口を増やすときの取組をやってもらいたい。
- ◆那賀川の橋に注目することはよい。那賀川流域で歴史のある農村舞台と連携した取組もやってほしい。
- ◆環境がよいということは、(いろいろなものの) 持続可能につながることから、生物多様性というものに目を向け、町が潤うこともやっていけたら良い。
- ◆那賀川をもっとPRすること。いろいろ取組を「時間軸」や「空間軸」で捉え、物語化すること。
- ◆冬季イベントとして樹氷まつりは良かった。イベントは作ってやるのではなく、自然にあるものを利用してやってもらいたい。
- ◆「かわまちづくり」と「ひとづくり」を一体的な取り組みとして目指すべき。生物多様性や環境保全をコンセプトメイクの基軸とすべきであり、それを主用途とすれば、物語としての収益は豊かな自然資源とそれに由来する地域資源や人材が活用され地域の発展した姿がみえるはずなので、将来ビジョンをしっかりと描いていくことが重要。コンセプトは一貫したしなやかで持続可能な物語となるためにも、しっかり検証し、更新するスキームの構築が必要。
- ◆那賀川に人が集まりやすい場所の整備や那賀川に来たくなるようなPRを考え、物語化を進めていく。



などの意見がありました。

推進会議ではこれらの意見も踏まえ、今後の目指すべき取組をさらに深めていきたいと思えます。